

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうらら金山(櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2172800548-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、開設以来11年を迎えます。ここぬくもりの里地域は、字のごとく優しく、温かい方々に見守られ、また地域交流に最適な環境です。自然にも恵まれている。アクセス面では、下呂市から郡上市までのトンネル工事が一部開通となり利便性が高く今後に期待できる。施設と隣接する温泉施設の敷地内には、下呂市立金山病院があり緊急時には、協力病院と連携を取り早期受診が可能で安心である。居室は、個室になっており、ご利用者様が使い慣れた私物を持ち込むことができる。居室には、思い思いの思い出の写真や作品等飾られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町の中心にあり、地域資源に恵まれている。地域起こしの「ぬくもりの里」プロジェクトのメンバーとして、役割の一端を担い、地域福祉の応援団として活動をしている。管理者・職員は、チームワークを強め、高齢者の人生経験から学び、働く意欲と、利用者の生き生きとした暮らしにつなげている。そして、介護と看護の連携を密に、質の高い、安心なケアを提供している。職員は、利用者の残存能力を引き出し、自立を支え、自分らしい生活が送れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は両館の見やすい箇所に掲げ、毎月の職員会議で唱和して職員の団結を深めている。職員、地域の方々と信頼関係を築くことや、地域交流をすることを常に意識して利用者の明るい表情を引き出せる事を目標に介護をしている。	理念は、玄関から入った所の目線位置に掲げ、職員会議で、地域密着の意義を共有している。利用者の意思を尊重し、明るい表情を引き出し、信頼関係を築きながら、自分らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、外食の際には顔見知りや友人に出会うこともあり、地域の方との交流がある。自治会に入っており、清掃活動、展示会、地域行事に参加している。近所の方が野菜や果物を届けて下さり、夏には七夕祭りを開催して地域の方に参加していただいた。	自治会の一員として、清掃活動や地域行事に参加をしている。近所の人には、七夕祭りに招待するなど、親しくつき合っている。中学生の福祉体験を受け入れたり、地域起こしのプロジェクトに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験や知識を生かし、お尋ねがあれば、現状をお伝えしながらお話させていただいている。小学生の福祉学習、中学校の職場体験時には認知症についての説明したり、プリントを配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月で開催、行政、家族、民生児童委員、自治会、長寿会、福祉委員に参加を呼び掛けている。活動報告、出席者間の情報交換や、意見交換して、サービスの向上に生かしている。過去には車いすの利用者様のためにスロープを設置させていただいた。	会議は、隔月に開催し、活動状況や利用者の様子を報告し、情報を交換している。ホーム通信の内容でも説明をしている。運営推進会議が平日開催では参加が困難な委員が多く、安定して継続できるよう、出席者に協力を求めている。	運営推進会議に参加しやすい日程調整をし、各委員の出席率向上に向けた取り組みで、有意義な会議の継続なることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、市の高齢福祉課担当者が出席している。また、包括支援センターが主催の金山地域連携会議が2か月に1回行われており、各事業所、地域包括支援センター、保健師、薬剤師と協議し連携を図っている。	市の担当課や地域包括支援センターと、日頃より連携が取れている。行政主催の地域連携会議や、医師会の医療連携ケア会議に出席している。運営推進会議では、市の担当者に運営の実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けや目配り、気配りで支援して、身体拘束しないことを徹底している。自由かつ安全に行動できるよう、櫻館と向日葵館を行き来する際には職員が必ず付き添い、夜間は居室にセンサーマットを使用し、支援している。職員会議で勉強会をして、職員全体で認識するよう努めている。	認知症による周辺症状には、不安を取り除くように対応し、拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間は、居室出入り口やベッドからの動きを察知できるよう、センサーマットや鈴を取り付け、安全の確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会や研修で学ぶ機会を設けており、言葉使いや接し方についても日頃から職員で話し合い、「不適切なケア」についても気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、申込みをされている方で、成年後見制度を利用されている方や検討中の方が見える。そういった方が入られる前に研修や勉強会に参加し、必要と思われる利用者に活用できるように職員の理解を深めて行きたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時には契約書及び重要事項説明書、その他関連書類を提示し、ご家族と読み合わせをしている。疑問点がある場合にはホーム長が説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、来訪者カードにもご要望を記入する欄を設けています。家族の面会時に意見やご要望が言いやすい雰囲気づくりに努め、ご要望は申し送りノートに記入し、職員が周知できるようにしている。	玄関口に設置してある意見箱に、記入カードを設け、意見や要望を受け付けている。また、家族の面会時にも、気楽に言いやすい関係を築き、話し合いの場を設けている。把握した内容を検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年に2回、職員と個別に面談して意見を聞く機会を設けている。月に1回の職員会議でも活発な意見があり、管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている。職員からの意見で消耗品の管理方法を変え、使用量の削減ができた。	管理者は、職員会議の中で、意見や提案を話し合い、業務改善に反映させている。また、個別面談も行っている。職員の休憩時間の確保や消耗品の適切な管理などの提案を受け、実現につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の健康診断を実施し、必要に応じて再検査を勧めている。年に2回、管理者と面談を行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には進んで参加していただいている。毎月の職員勉強会にて発表し共有している。新人職員は1ヶ月間を研修期間としています。未経験者、無資格者には会社負担で初任者研修受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飛騨支部グループホーム協議会、金山地区医師会主催の会議、地域連携会議に出席し、金山地区の勉強会にも積極的に参加。他の事業所との交流させていただいている。より良いサービスを目指して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き事前面談を行い、居宅のケアマネ又は包括支援センターから生活の様子を伺っている。事前面談時には必ずご本人と話をして心配な事、困っていることを伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みされる前や見学などの早い段階で、ご家族の困っている事ご苦勞されている事を受容しながらゆっくりと話を聞くように努めている。グループホームへのご要望も親身になって聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族のご希望に沿うようにつとめている。場合によっては他のサービス、他の事業所を紹介したり、包括支援センターへ相談し支援の方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りに努め、特に食事やお茶の時間は利用者、職員ともにゆったりとした時間を持っていただいている。季節行事の飾り付け、生け花、簡単な調理の下ごしらえなど利用者と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の状態や思いをこまめに報告・相談し、情報共有に努めている。同時にご家族の思いも聞き入れながら、協力していただけることは無理のない程度にお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や近所の方の訪問もあり、気軽にきていただけるよう、雰囲気づくりに努めている。散歩や外食、買い物に出掛け、知人に出会える事もある。馴染みの場所への外出はご家族の協力が大きい。	知人や友人の面会が多く、継続して訪れている。馴染みの場所へは、家族の協力を得ている。道の駅や地域の行事へ出かけ、知人に出会っている。買い物や外食もなじみの店を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はゆったりと寛げる雰囲気を大切にしながら、会話ができるよう努めている。職員が間に入り、良好な関係が築けるように会話をサポートしたり、感謝の気持ちを伝え、労うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や自宅へ移られる場合は、面談時には立ち会い、情報提供書をお渡ししている。、継続してケアが行われるよう、今までの経過やケアの方法について情報を伝えている。退所後も連絡をして、経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族のご希望は気づきノートに記載し、職員全員が把握するようにしている。また、日頃のケアの中で発した言葉や表情、行動から思いをくみ取るように努め、入浴中や就寝前は一對一でゆったりと語るように努めている。	日常生活の中で、言葉や行動・表情・目の動きなどから、思いや意向を把握している。また、入浴中や就寝前に落ち着いた雰囲気言葉で言葉を交わし、気づきノートで利用者の思いを共有し、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時にご本人やご家族、担当ケアマネジャーから聞き取りをして、暮らしの把握をしている。関連施設からも情報提供書を頂き、経過やケアの方法について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、介護記録表、排泄記録表、気づきノートに記録して申し送りで情報を共有している。カンファレンス開催前に「良いと思われる点」について記入し、有する力について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や、電話で意見を聞いている。本人や家族の意向を職員間で共有し、カンファレンスで介護計画について検討しチームの意見を反映させた計画を作成している。	担当職員を中心に、定期的にモニタリングをしている。本人や家族の意向を確認し、職員間でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。看護師による医療面を充実させ、自分らしく生活できるような計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫は特記事項や気づきノートに記載し職員間で情報共有している。それをもとにカンファレンスで話し合いながら介護計画の見直し、評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や往診、必要な物品の購入、補聴器や眼鏡の修理依頼、金融機関や保険会社への連絡などの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法を月に1回行い、歌唱レク、傾聴、紙芝居、二胡の演奏、手品などのボランティアの方に来て頂いている。また、児童館訪問、小学生の福祉学習、中学校の職場体験など受け入れ、多様な年代の方と触れ合えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に受診していただいている。基本は家族受診であるが、緊急時やご家族の状況によって看護師で受診介助をおこなっている。必要時、眼科・耳鼻科・歯科口腔外科受診・整形外科・精神科などの専門医への受診を支援している。	かかりつけ医の継続の利用者と、希望で協力医に変更している利用者がいる。受診は、看護師が同行し、専門科医へは、家族に事情あれば、事業所が代行し、急変時は、近くの市民病院と連携し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師を配置。健康状態や認知症の症状について適宜、報告・相談し、必要に応じて24時間体制をとっている。介護職の観察力は適切で早い段階で状態の変化に気づくことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を提出し、入院中は病院と情報交換をして状態を把握。退院直前には地域連携室の相談員や看護師など、他職種の方から利用者様の状態を確認して退院後安心して生活していただけるよう話し合う場がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医と話し合い当施設で出来る事、出来ないことを十分に説明をしている。適宜、説明をし、ご家族の意向を確認しながら、必要時ホームの協力医が往診に来ていただける体制をとっている。	重度化と終末期の指針を基に、本人・家族に説明し、理解を得ている。終末期は、かかりつけ医の往診体制を取り、家族と協力しながら、支援をしている。看取りは、数名の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送等の急変時に備えて、利用者の情報(既往歴・服薬状況等)をまとめ、速やかに対応できるようにしている。緊急連絡体制を整備しているが、応急手当の訓練には至っていない。今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日は火災を想定した避難訓練を実施。また年2回消防署立会いの避難訓練をしている。シェイクアウト訓練を11月に実施。今後は地震を想定とした訓練を行っていく予定である。	地域の総合防災訓練に参加をしている。また、毎月、出火場所や夜間を想定した自主訓練を実施し、年に2回は、消防署が立ち会っている。防災備品や排泄用品、非常食などを確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、丁寧な言葉使いに努めている。居室に入る場合は必ずお声掛けをして同意を得てから入るようにしている。常に意識するよう、職員会で確認しあったり、不適切な場合は管理者やリーダーから指導をしている。	一人ひとりに寄り添い、人格を尊重した言葉づかいに努めている。慣れ合いで誇りを損ねないように配慮をし、職員間で共有をしている。話すときは、顔を見て、目線を合わせることを基本にして対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしを共に過ごす中で、利用者の希望や好みを言葉のみならず行動や表情でも把握するよう努めている。表出しやすいような雰囲気や信頼関係を築くことができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや体調に配慮しながら、希望にそって支援している。朝食は時間をご希望や体調に合わせて食べて頂くことが多い。また、病院受診などの外出予定は事前に居室のカレンダーに書き込み、知らせしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服選びはご本人に選択していただき、整容は出来ない時には声掛けや、介助で行っている。希望の美容院へはご家族のご協力で行くことができている。ホームへの訪問整容は2~3ヶ月に1回ぐらいで定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食、手作りであり、季節が感じられるように旬の食材を取り入れ、誕生日には好きなメニューをお出ししている。利用者様は下拵えや、食器拭きなどをお手伝いをして下さる。職員は同じテーブルに座り会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。	食材は、利用者と一緒に買い物をし、旬のものを仕入れている。個々の残存能力を活かし、下準備や片づけに関わっている。職員も一緒に、同じ食事を摂り、ゆっくりと、楽しい雰囲気、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼の状況を見ながら、刻みやミキサー食、とろみの使用を行っている。また、食器の色に配慮して食材が見やすいよう、自立して摂取出来るよう工夫している。好みの飲み物で水分摂取していただくこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の様子からも口腔状態に気を付け、毎食後口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり洗浄剤を使用、週に1回コップ、義歯ケースを消毒している。歯ブラシの消耗を確認して清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレで排泄できるように誘導している。	個々の排泄チェック表を基に、失敗が少なくなるように、トイレ誘導を行っている。夜間は、時間を見据えてトイレへ促し、自立に向けて支援をしている。おむつ用品の削減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、献立に野菜を多く取り入れている。体操や散歩で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴で、1人20分から30分で体調に合わせて入っている。季節によってはゆず湯や菖蒲湯を用意。必要時、浴槽内に椅子を置いて、安全に入浴していただけるよう介助している。	脱衣室に、木製のベンチが設置してある。入浴の順番や時間、体調に配慮をしている。拒否の人は、さりげなく気分転換を図り、入浴中は、コミュニケーションを楽しむ大事な時間としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や好みに応じた時間で休んでいただいている。寝具を定期的に洗濯し、天日干しを行い気持ち良く安眠できるよう支援している。睡眠障害が見られる場合は日中の活動状況や出来事などを把握し総合的に判断して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり、職員はいつでも知ることができる。症状の変化は記録や申し送りを行い、看護師、主治医に報告して、必要時、薬の調節をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力に応じ、掃除、洗濯干し、洗濯たみをしていただいている。体操を日課として行い、ちぎり絵、裁縫、塗り絵等の作品の作り、展示会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に応じ、コースを決めて散歩をしている。お花見や紅葉狩りの時にはご家族や外出支援の方にご協力を頂き、自然を満喫していただけるように支援している。月に1回外出計画を立てて外食や児童館訪問を行っている。	屋外には、毎日出かけ、御堂や道の駅に立ち寄っている。小学校の運動会や児童館、外食などに出かけている。季節の花見や紅葉狩りなどは、家族も参加し、恒例行事となっている。	

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は事務所の金庫でお預りしている。利用者のご希望にそって3000円程度の金額をご自身で管理されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人への電話をご希望される場合は、電話を取り次ぎをして、居室や事務所で話していただくように配慮している。手紙もその方の能力に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチン是对面しており、生活感のある空間作りに努めている。利用者で作った季節の作品、外出時や季節行事の写真をリビングの壁面に飾っている。洗面台には季節の花を花瓶に生け、季節感を取り入れている。	共用の間には、貼り絵や季節感のある手づくり作品、記念写真、生花が活かしてある。玄関口には、地植えの竹やプランターで花を育てている。居間の一角には、堀ごたつを設け、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては食卓の椅子やソファ、和室の掘りごたつに座ったりとお好きな場所で寛いでいただいている。利用者様同士で会話が弾んでいる時は、職員は入らずに見守ることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、馴染みの家具、衣類を家より持ち込まれ、ご家族・ペットの写真を飾り、本人や家族と相談しながら居心地の良い空間になるよう心掛けている。	居室には、その人らしさを大切に、なじんだ家具や日用品を持ち込み、家族と相談して配置をしている。家族やペットの写真を飾り、表札も個性的で、居心地のよい居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒予防しながら、衣類が取りやすいように家具の配置を本人と相談して工夫をした。個々に合わせて鈴を設置したり、センサーマットにして安全に見守りができるように対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうらら金山(向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は両館の見やすい箇所に掲げ、毎月の職員会議で唱和して職員の団結を深めている。職員、地域の方々と信頼関係を築くことや、地域交流をすることを常に意識して利用者の明るい表情を引き出せる事を目標に介護をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買い物、外食の際には顔見知りや友人に出会うこともあり、地域の方との交流がある。自治会に入っており、清掃活動、展示会、地域行事に参加している。近所の方が野菜や果物を届けて下さり、夏には七夕祭りを開催して地域の方に参加していただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験や知識を生かし、お尋ねがあれば、現状をお伝えしながらお話しさせていただいている。小学生の福祉学習、中学校の職場体験時には認知症についての説明したり、プリントを配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月で開催、行政、家族、民生児童委員、自治会、長寿会、福祉委員に参加を呼び掛けている。活動報告、出席者間の情報交換や、意見交換して、サービスの向上に生かしている。過去には車いすの利用者様のためにスロープを設置させていただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、市の高齢福祉課担当者が出席している。また、包括支援センターが主催の金山地域連携会議が2カ月に1回行われており各事業所、地域包括支援センター、保健師、薬剤師と協議し連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けや目配り、気配りで支援して、身体拘束しないことを徹底している。自由かつ安全に行動できるよう、櫻館と向日葵館を行き来する際には職員が必ず付き添い、夜間は居室にセンサーマットを使用し、支援している。職員会議で勉強会をして、職員全体で認識するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会や研修で学ぶ機会を設けており、言葉使いや接し方についても日頃から職員で話し合い、「不適切なケア」についても気を付けている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、申込みをされている方で、成年後見制度を利用されている方や検討中の方が見える。そういった方が入られる前に研修や勉強会に参加し、必要と思われる利用者に活用できるように職員の理解を深めて行きたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時には契約書及び重要事項説明書、その他関連書類を提示し、ご家族と読み合わせをしている。疑問点がある場合にはホーム長が説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、来訪者カードにもご要望を記入する欄を設けています。家族の面会時に意見やご要望が言いやすい雰囲気づくりに努め、ご要望は申し送りノートに記入し、職員が周知できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年に2回、職員と個別に面談をして意見を聞く機会を設けている。月に1回の職員会議でも活発な意見があり、管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からの意見で消耗品の管理方法を変え、使用量の削減ができた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の健康診断を実施し、必要に応じて再検査を勧めている。年に2回、管理者と面談を行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には進んで参加していただいている。毎月の職員勉強会にて発表し共有している。新人職員は1ヶ月間を研修期間としています。未経験者、無資格者には会社負担で初任者研修受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飛騨支部グループホーム協議会、金山地区医師会主催の会議、地域連携会議に出席し、金山地区の勉強会にも積極的に参加。他の事業所との交流させていただいている。より良いサービスを目指して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き事前面談を行い、居宅のケアマネ又は包括支援センターから生活の様子を伺っている。事前面談時には必ずご本人と話をして心配な事、困っていることを伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みされる前や見学などの早い段階で、ご家族の困っている事ご苦勞されている事を受容しながらゆっくりと話を聞くように努めている。グループホームへのご要望も親身になって聞くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族のご希望に沿うようにつとめている。場合によっては他のサービス、他の事業所を紹介したり、包括支援センターへ相談し支援の方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りに努め、特に食事やお茶の時間は利用者、職員ともにゆったりとした時間を持っていただいている。季節行事の飾り付け、生け花、簡単な調理の下ごしらえなど利用者と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の状態や思いをこまめに報告・相談し、情報共有に努めている。同時にご家族の思いも聞き入れながら、協力していただけることは無理のない程度にお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人や近所の方の訪問もあり、気軽にきていただけるよう、雰囲気づくりに努めている。散歩や外食、買い物に出掛け、知人に出会える事もある。馴染みの場所への外出はご家族の協力が大きい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はゆったりと寛げる雰囲気を大切にしながら、会話ができるように努めている。職員が間に入り、良好な関係が築けるように会話をサポートしたり、感謝の気持ちを伝え、労うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や自宅へ移られる場合は、面談時には立ち会い、情報提供書をお渡ししている。、継続してケアが行われるよう、今までの経過やケアの方法について情報を伝えている。退所後も連絡をして、経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族のご希望は気づきノートに記載し、職員全員が把握するようにしている。また、日頃のケアの中で発した言葉や表情、行動から思いをくみ取るように努め、入浴中や就寝前は一対一でゆったりと語るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時にご本人やご家族、担当ケアマネジャーから聞き取りをして、暮らしの把握をしている。関連施設からも情報提供書を頂き、経過やケアの方法について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、介護記録表、排泄記録表、気づきノートに記録して申し送りで情報を共有している。カンファレンス開催前に「良いと思われる点」について記入し、有する力について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは面会時や、電話で意見を聞いている。本人や家族の意向を職員間で共有し、カンファレンスで介護計画について検討しチームの意見を反映させた計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫は特記事項や気づきノートに記載し職員間で情報共有している。それをもとにカンファレンスで話し合いながら介護計画の見直し、評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や往診、必要な物品の購入、補聴器や眼鏡の修理依頼、金融機関や保険会社への連絡などの対応をしている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法を月に1回行い、歌唱レク、傾聴、紙芝居、二胡の演奏、手品などのボランティアの方に来て頂いている。また、児童館訪問、小学生の福祉学習、中学校の職場体験など受け入れ、多様な年代の方と触れ合えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に受診していただいている。基本は家族受診であるが、緊急時やご家族の状況によって看護師で受診介助をおこなっている。必要時、眼科・耳鼻科・歯科口腔外科受診・整形外科・精神科などの専門医への受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師を配置。健康状態や認知症の症状について適宜、報告・相談し、必要に応じて24時間体制をとっている。介護職の観察力は適切で早い段階で状態の変化に気づくことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を提出し、入院中は病院と情報交換をして状態を把握。退院直前には地域連携室の相談員や看護師など、他職種の方から利用者様の状態を確認して退院後安心して生活していただけるよう話し合う場がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医と話し合い当施設で出来る事、出来ないことを十分に説明をしている。適宜、説明をし、ご家族の意向を確認しながら、必要時ホームの協力医が往診に来ていただける体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急搬送等の急変時に備えて、利用者の情報(既往歴・服薬状況等)をまとめ、速やかに対応できるようにしている。緊急連絡体制を整備しているが、応急手当の訓練には至っていない。今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日は火災を想定した避難訓練を実施。また年2回消防署立会いの避難訓練をしている。シェイクアウト訓練を11月に実施。今後は地震を想定とした訓練を行っていく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、丁寧な言葉使いに努めている。居室に入る場合は必ずお声掛けをして同意を得てから入るようにしている。常に意識するよう、職員会で確認しあったり、不適切な場合は管理者やリーダーから指導をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしを共に過ごす中で、利用者の希望や好みを言葉のみならず行動や表情でも把握するよう努めている。表出しやすいような雰囲気や信頼関係を築くことができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや体調に配慮しながら、希望にそって支援している。朝食は時間をご希望や体調に合わせて食べて頂くことが多い。また、病院受診などの外出予定は事前に居室のカレンダーに書き込み、知らせしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服選びはご本人に選択していただき、整容は出来ない時には声掛けや、介助で行っている。希望の美容院へはご家族のご協力で行くことができている。ホームへの訪問理由は2~3ヶ月に1回ぐらいで定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食、手作りであり、季節が感じられるように旬の食材を取り入れ、誕生日には好きなメニューをお出ししている。利用者様は下拵えや、食器拭きなどをお手伝いをして下さる。職員は同じテーブルに座り会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼の状況を見ながら、刻みやミキサー食、とろみの使用を行っている。また、食器の色に配慮して食材が見やすいよう、自立して摂取出来るよう工夫している。好みの飲み物で水分摂取していただくこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の様子からも口腔状態に気を付け、毎食後口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり洗浄剤を使用、週に1回コップ、義歯ケースを消毒している。歯ブラシの消耗を確認して清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレで排泄できるように誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、献立に野菜を多く取り入れている。体操や散歩で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴で、1人20分から30分で体調に合わせて入っている。季節によってはゆず湯や菖蒲湯を用意。必要時、浴槽内に椅子を置いて、安全に入浴していただけるよう介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や好みに応じた時間で休んでいただいている。寝具を定期的に洗濯し、天日干しを行い気持ち良く安眠できるよう支援している。睡眠障害が見られる場合は日中の活動状況や出来事などを把握し総合的に判断して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり、職員はいつでも知ることができる。症状の変化は記録や申し送りを行い、看護師、主治医に報告して、必要時、薬の調節をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力に応じ、掃除、洗濯干し、洗濯たみをしていただいている。体操を日課として行い、ちぎり絵、裁縫、塗り絵等の作品の作り、展示会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に応じ、コースを決めて散歩をしている。お花見や紅葉狩りの時にはご家族や外出支援の方にご協力を頂き、自然を満喫していただけるように支援している。月に1回外出計画を立てて外食や児童館訪問を行っている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は事務所の金庫でお預りしている。利用者のご希望にそって3000円程度の金額をご自身で管理されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人への電話をご希望される場合は、電話を取り次ぎをして、居室や事務所で話していただくように配慮している。手紙もその方の能力に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチン是对面しており、生活感のある空間作りに努めている。利用者が作った季節の作品、外出時や季節行事の写真をリビングの壁面に飾っている。洗面台には季節の花を花瓶に生け、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては食卓の椅子やソファ、和室の掘りごたつに座ったりとお好きな場所で寛いでいただいている。利用者様同士で会話が弾んでいる時は、職員は入らずに見守ることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、馴染みの家具、衣類を家より持ち込まれ、ご家族・ペットの写真を飾り、本人や家族と相談しながら居心地の良い空間になるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒予防しながら、衣類が取りやすいように家具の配置を本人と相談して工夫をした。個々に合わせて鈴を設置したり、センサーマットにして安全に見守りができるように対応している。		